

交通量調査の結果を踏まえた駐車場の規模等について

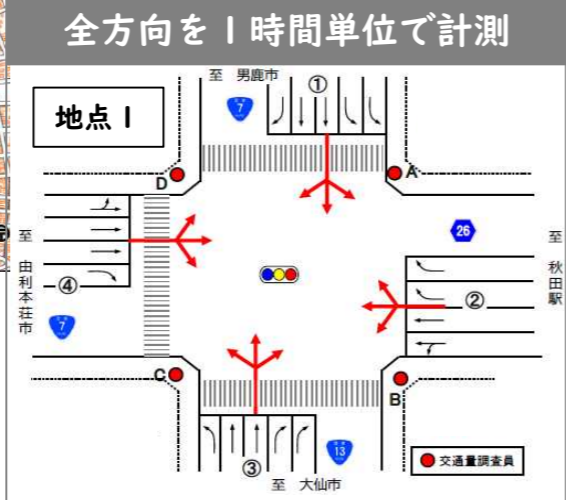
資料 I

【交通量調査】周辺の主要交差点3箇所で交通量調査を実施



地理院地図を元に加工して作成

5/7(日)：プロバスケットとプロサッカーが同日開催
5/9(火)：通常の交通量であると見込まれる平日
⇒ 両日とも9:00～21:00の交通量を実測



最大交通量

[地点1]	4,822台 (平日17時台)
[地点2]	3,114台 (平日17時台)
[地点3]	4,578台 (平日17時台)

交差点需要率 (ピーク時間帯)

[地点1]	0.570 < 0.9
[地点2]	0.385 < 0.9
[地点3]	0.484 < 0.9

交差点需要率：処理可能な交通量に対する交通需要の割合を示す指標であり、概ね0.9を下回る場合は円滑な交通処理が可能と評価される。

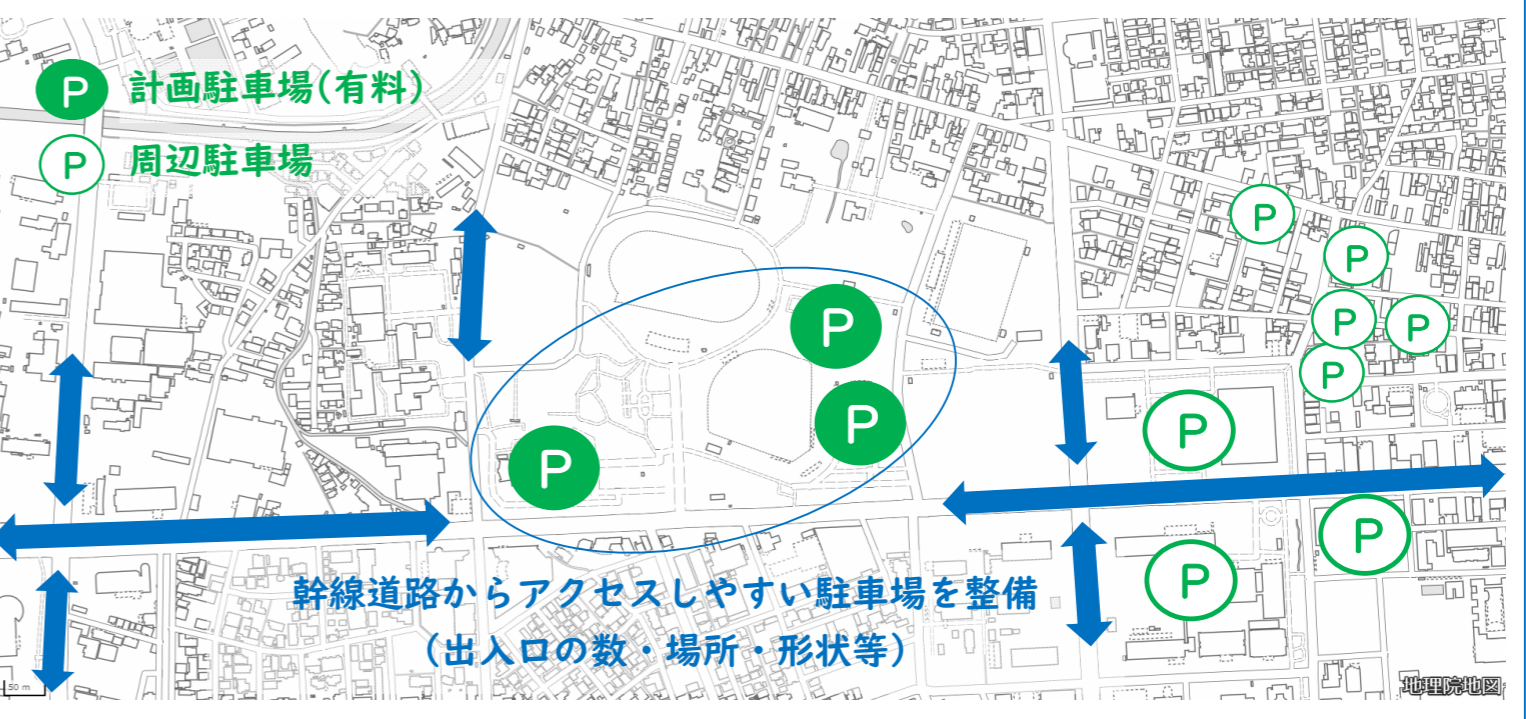
- ・プロバスケットの試合で+1,674台 (計画駐車台数500台+周辺1,174台) 流出入すると仮定
- ・試合時間を平日19:00～21:00/休日14:00～16:00と設定し、来場・退場の両方を分析

交差点需要率 (ピーク時間帯)

[地点1]	0.610 < 0.9 (平日17時台)
[地点2]	0.424 < 0.9 (平日17時台)
[地点3]	0.557 < 0.9 (平日17時台)

評価結果
1,674台以内であれば、いずれの交差点でも円滑な交通処理が可能であり、生活環境への影響は小さいといえる

駐車場は500台程度が適当であり、誘導等を工夫して影響をさらに低減



※ 駐車場に余裕がある通常時は、他の公園施設の利用者にも開放し、公園機能を向上

他県事例 プロチーム等の主催者が駐車場を貸切使用して、予約制の導入や駐車料金の上乗せ等の対策を講じることが一般的

⇒ 新体育館においても、興行の主催者が主体的に駐車場を運用することを想定して、駐車場設備の仕様や駐車料金等を検討